

## 研究活動報告

### 第78回人口問題審議会総会

第78回人口問題審議会総会は、平成10年6月26日（金）午前10時30分より12時30分まで、中央合同庁舎5号館共用第9会議室において開催された。委員、専門委員の大幅な変更があったため、委員、専門委員の紹介の後、会長の互選にはいり、宮澤健一委員が会長に選出された。次いで、以下のような報告があり、その報告をめぐって質疑応答が行われた。その後、今後の運営について話し合われた。

1. 第11回出生動向基本調査について（国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部長 高橋重郷）
2. 平成9年人口動態統計月報年計（概数）の概況について（大臣官房統計情報部人口動態統計課長 田中正）
3. 平成10年版厚生白書について（大臣官房政策課情報化・地域政策推進室長 棕野美智子）  
(金子武治記)

### 日本人口学会第50回大会

日本人口学会（会長：岡田 實）の第50回大会は、日本人口学会創立50周年記念大会ならびにマルサス『人口論』初版刊行200年記念として、1998年6月4日（日）から6日（土）にかけて、中央大学駿河台記念館（東京都千代田区神田駿河台）において開催された。本大会は、中央大学経済学部の大淵寛教授を運営委員長とする大会運営委員会の多大な努力によって、盛会に行われた。50周年記念ということもあり、例年より多くの出席者があり、活発な討議が行われた。

初日の6月4日は、国際フォーラム「東南アジアの都市における高齢化問題」として次のような報告会ならびにパネルが行われた。

報告会「都市の人口高齢化－現状と将来」

〈司会〉河野稠果（麗澤大学）

[報告]

中国の都市の人口高齢化

曾 毅 [Zeng Yi] (北京大学)

韓国の都市の人口高齢化

崔 仁鉉 [Choe Ehn-Hyun] (韓国人口学会)

台湾の都市の人口高齢化

孫 得雄 [Sun Te-Hsiung] (台湾大学)

日本の都市における人口高齢化との現状と将来動向

大友 篤 (日本女子大学)

パネル「都市の高齢化問題と政策的対応」

〈座長〉岡崎陽一（日本大学）

[講演]

馬寅初と『新人口論』

徐 愛光 [Xu Ai-Guang] (馬寅初人口基金)

[報告]

上海市の高齢化社会とその対応

桂 世勛 [Gui Shi-Kun] (華東師範大学)

ソウルの高齢化事情とその対応

尹 鍾周 [Yoon Jong-Joo] (韓国老年学会)

大邱市の高齢化事情とその対応  
台北市等の高齢化問題とその対応  
日本の大都市の高齢化対策

李 誠國 [Lee Sung-Kook] (慶北医科大学)  
張 明正 [Chang Ming-Cheng] (東海大学)  
丸尾直美 (日本大学)

6月5日、6日の大会におけるシンポジウム、共通論題、テーマセッション、自由論題の報告題目及び報告者は次のとおりである。

○シンポジウム「マルサスは生きているか」

<組織者>大淵 寛 (中央大学)  
<座 長>嵯峨座晴夫 (早稲田大学)

[報告]

1. 近年におけるマルサス復興—ヴィクセルを中心として— 橋本比登志 (京都産業大学)
2. マルサスと現代人口論争 岡田 實 (中央大学)
3. 21世紀のマルサス 岡崎陽一 (日本大学)

<討論者>河野稠果 (麗澤大学)  
赤沢昭三 (東北学院大学)

○共通論題A「日本の人口学50年」

<組織者>大友 篤 (日本女子大学)  
<座 長>加藤寿延 (亜細亜大学)

[報告]

1. 経済学的立場から 小川直宏 (日本大学)
2. 社会学的立場から 津谷典子 (慶応義塾大学)
3. 医学・保健学的立場から 佐藤龍三郎 (国立社会保障・人口問題研究所)
4. 人口地理学の戦後50年と課題 高橋真一 (神戸大学)

<討論者>大淵 寛 (中央大学)  
重松峻夫 (福岡大学)

○共通論題B「21世紀の寿命と健康」

<組織者>河野稠果 (麗澤大学)  
<座 長>鈴木継美 (東京大学)

[報告]

1. 日本人の寿命と健康の統計的分析 上村一夫 (流通経済大学)
2. 日米における寿命と健康の研究のフロンティア 齋藤安彦 (日本大学)
3. 寿命の伸びとその医療費への影響 府川哲夫 (国立社会保障・人口問題研究所)

<討論者>南條善治 (東北学院大学)  
高橋重郷 (国立社会保障・人口問題研究所)

○テーマセッション(1)「家族の歴史人口学」

<組織者・座長>鬼頭 宏 (上智大学)

[報告]

1. 赤子養育法と家族—近世の福祉政策は人口増加をもたらしたか?— 高橋美由紀 (国際日本文化研究センター)
2. 近世農民社会における世帯構成のサイクル 岡田あおい (帝京大学)
3. 離家パターンにみる近世農民の人口と家族 黒須里美 (国際日本文化研究センター)  
岡田あおい (帝京大学)

4. 明治初頭における親子同居と人口学的制約 落合恵美子 (国際日本文化研究センター)  
 5. 近世における家系継承と人口学的要因—会津藩藩土の場合—

坪内玲子 (龍谷大学)

6. 近世中期屋久島における家族構成と生産基盤 溝口常俊 (名古屋大学)

○テーマセッション(2)「ジェンダーと人口問題」

<組織者・座長>阿藤 誠 (国立社会保障・人口問題研究所)

1. ジェンダーの視点からみた日本の人口転換 阿藤 誠 (国立社会保障・人口問題研究所)

2. 高齢者とジェンダー 坂井博通 (清泉女学院短期大学)

3. ジェンダーと人口移動—アイルランド移民からの考察—

小林由紀子 (London School of Economics)

4. 東アジア諸国の出生性比 林 謙治 (国立公衆衛生院)

5. ジンバブエの配偶関係とジェンダ 早瀬保子 (アジア経済研究所)

Kao-Lee Liaw (McMaster University)

○テーマセッション(3)「マルサス人口論をめぐる諸問題」

<組織者・座長>石 南国 (城西大学)

1. マルサス人口論からみた日本人口の歴史

石原正令 (関東学園大学)

2. マルサスは人口の敵か?

原田理恵 (中央大学)

3. マルサス・モデルとボーズラップ・モデル—

石 南国 (城西大学)

4. マルサス人口論における資本蓄積とジェンダー格差

野上裕生 (アジア経済研究所)

5. マルサス人口論における結婚制度

岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所)

○自由論題報告

<座長>皆川勇一 (専修大学)

「第11回出生動向基本調査関連報告」

1. 夫婦の結婚行動と意識

岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所)

三田房美 (国立社会保障・人口問題研究所)

金子隆一 (国立社会保障・人口問題研究所)

2. 夫婦の出生行動と意識

佐々井司 (国立社会保障・人口問題研究所)

池ノ上正子 (国立社会保障・人口問題研究所)

高橋重郷 (国立社会保障・人口問題研究所)

3. 妻の就業・保育環境と出産・子育て

新谷由里子 (国立社会保障・人口問題研究所)

佐藤龍三郎 (国立社会保障・人口問題研究所)

渡邊吉利 (国際医療福祉大学)

<座長>森岡 仁 (駒沢大学)

4. 近年の出生率低下の要因分解—再論—

廣嶋清志 (島根大学)

5. 都道府県間出生力格差の多角的検討

今井博之 (国立社会保障・人口問題研究所)

<座長>濱 英彦 (元成城大学)

6. 日本の「大都市圏」の範囲と戦後の国内人口移動

阿部 隆 (宮城学院女子大学)

7. 交通流動の地域構造について—地域人口変動との対応から—

中村和浩 (亜細亜大学)

<座長>三浦由己 (駿河台大学)

8. 丙午生まれのライフコース

坂井博通 (清泉女学院短期大学)

9. 世帯変動の要因分析

鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所)

〈座長〉河邊 宏（専修大学）

「第4回人口移動調査関連報告」

10. 人口移動と人口分布変動 中川聡史（国立社会保障・人口問題研究所）
11. 近年の人口移動理由 清水昌人（国立社会保障・人口問題研究所）
12. わが国における離家と人口移動 西岡八郎（国立社会保障・人口問題研究所）  
〈座長〉内野澄子（国際学院埼玉短期大学）
13. 大都市圏における近年の人口移動動向 井上 孝（青山学院大学）
14. 居住地移動の見通しと人口分布変動 大江守之（慶応義塾大学）  
〈座長〉篠崎吉郎（元帝塚山大学）
15. コーホート有配偶出生力低下プロセスの数理モデル— Logistic Model による説明 池周一郎（帝京大学）
16. 出生率のモデリング 小川直宏（日本大学）  
松倉カ也（日本大学）
17. 出生動学モデルとその実証可能性について 和田光平（中央大学）  
〈座長〉杉野元亮（九州共立大学）
18. 重複世代モデルによる人口増加，資本蓄積および社会保障の分析 加藤久和（電力中央研究所）
19. 適度人口論再考—所得不確実性，危険回避，そして出生力— 佐々木啓介（東洋大学）
20. 過疎化のダイナミックス・モデルその3  
—地域の福祉，教育，生活環境，行財政が人口流出に与える影響  
原 俊彦（北海道東海大学）  
〈座長〉大塚柳太郎（東京大学）
21. キクユ社会における家族計画の受容—ケニヤ・ムランガ県・G村の調査報告から— 石井洋子（東京都立大学）
22. パプアニューギニア低地ギデラ族の出生力の生物人口学的分析 中澤 港（東京大学）  
大塚柳太郎（東京大学）
23. メキシコ南部農村の生業体系と出生力—先住民とラディーノ村落の事例— 三澤健宏（津田塾大学）  
〈座長〉井上俊一（日本大学）
24. 南インドの人口動態—1883年～1948年— 齊藤 修（一橋大学）  
Ajay Singh（Jawaharlal Nehru University）  
高濱美保子（国立公衆衛生院）  
山本千映（一橋大学）
25. マレー農村の人口動態と世帯構成の変化— Galok村とPadang Lalang村の比較— 松下敬一郎（龍谷大学）
26. 平均識字余命の意義とその中国各地域への応用 黄 栄清（首都経貿大学）  
南條善治（東北学院大学）  
〈座長〉村松 稔（日本家族計画連盟）
27. 人口高齢化と扶養負担 辻 明子（早稲田大学）
28. 沖縄の平均寿命の統計的研究 河野稠果（麗澤大学）

29. 長寿論と高齢化社会 黒田俊夫（日本大学）  
 <座長>廣嶋清志（島根大学）
30. 人口研究におけるフォーカス・グループの可能性 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）
31. デモグラフィックスとマイクロマーケティング 安蔵伸治（明治大学）
32. インターネットによる人口動態統計の提供 池田一夫（東京都立衛生研究所）  
 上村 尚（東京都立衛生研究所）  
 （金子武治記）

## 日本経済政策学会第55回大会

日本経済政策学会（会長：植草益・東洋大学教授）の第55回大会（準備委員長：野尻武敏・大阪学院大学教授）が1998年5月23日（土）～24日（日）の二日間にわたって大阪府吹田市の大阪学院大学で開かれた。今回は「経済政策の有効性を問う」がテーマとなっており、そのテーマの下に初日には共通論題報告・討論が行われ、二日目には11の自由論題報告セッションが設けられた。人口に関連する報告は自由論題報告のいくつかのセッションに分散していたが、それらは以下の通りであった。

- Session 1 「社会保障」 <座長>水野朝夫（中央大学）  
 (2) 人口高齢化と医療費に関する分析  
 <報告者>佐川和彦（東海大学短期大学部）  
 <討論者>塚原康博（明治大学短期大学）
- Session 4 「地域経済」 <座長>樺本 功（広島市立大学）  
 (1) 地域の雇用の成長と労働市場への影響  
 <報告者>坂西明子（大阪府立大学）  
 <討論者>吉田良生（朝日大学）
- Session 9 「福祉政策」 <座長>横井弘美（名古屋学院大学）  
 (1) 新たな試練に立つ高度福祉国家・スウェーデン  
 - 国家のノーマライゼーションと家庭のインテグレーションの必要性 -  
 <報告者>桜井等至（近畿大学）  
 <討論者>永山泰彦（東海大学）  
 (2) 障害者雇用の日米比較-人的資本活用の観点から-  
 <報告者>茅原聖治（大阪府立大学）  
 <討論者>工藤 正（日本障害者雇用促進協会）
- Session 10 「地域経済」 <座長> 加藤壽延（亜細亜大学）  
 (2) 中東諸国における有配偶女子の労働供給  
 <報告者>小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）  
 <討論者>駿河輝和（大阪府立大学）